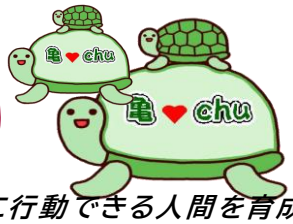
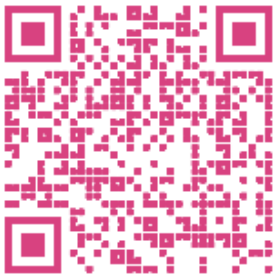
令和８年11月16日発行

亀戸中だより



亀中ホームページクリック





本校教育目標 「思いやりの心をもち、主体的に行動できる人間を育成する」
「探究」 「敬愛」 「挑戦」

「みんなかがやく」学校へ、生徒と「ともに」歩む、「主体性」育成方針

校長　三浦秀樹

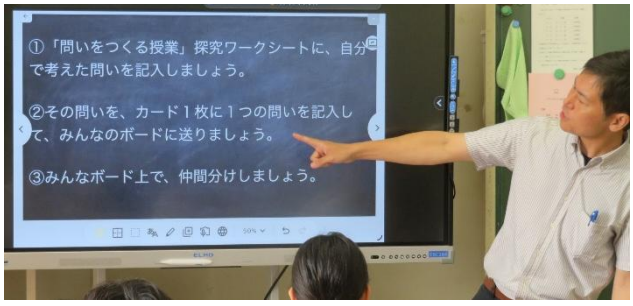
着任から 2 年が経過し、日々生徒たちと接する中で、改めて中学生がもつ大きな可能性を実感しております。適切な環境さえ整えば、生徒たちは自分たちの力で考え、自発的に行動を起こすことができます。本校では、「みんな、かがやく！」学校を目指し、生徒一人ひとりの「主体性」を育むため、以下の 5 つの柱を大切にした指導に取り組んでいます。

1. 安全な「枠組み」の中で安心して挑戦する

主体性を育む教育は、決して「好き勝手に行わせる放任」ではありません。教員は「目指すべきゴールと道筋」を明示し、人権を尊重するルールを守ること、困った時はいつでも相談できる体制を整えています。ルールや規範を守る基盤があるからこそ、生徒は安心して主体的に活動することができます。

2.「問いを創る」授業・話し合い活動の実践

・「問いを創る」授業



生徒が受け身の学習から脱却し、主体的に課題を見つけて探究を深めるための核となる実践です。「正しい答えを出せたか」だけでなく、「多角的な視点から問いを立てられたか」「学習を通じて問いを深められたか」を生徒の挑戦を評価します。

・話し合い活動





他生徒との話合いを通じて多角的な視点を養い、自ら理解度を客観視して学び方を修正する力を育成します。根拠をもって伝え合い互いを尊重して協働する中で、学習への主体性や他者と協働して最適解を導く力を育成します。

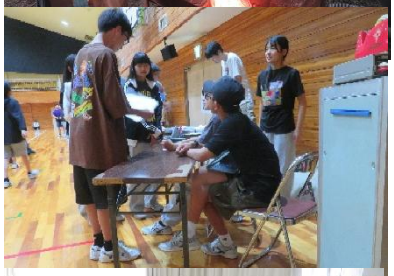




3. 生徒自身の「言葉」と「情熱」を力に

全校集会や学校行事では、教員が語る以上に、代表生徒の情熱的な言葉が生徒の心に響き、主体性を引き出す原動力になると考えています。生徒同士が互いに刺激を受け合い、高め合えるよう、事前に教員と代表生徒が「ともに」丁寧な打ち合わせを行いながら、生徒が主役となる場面を大切に創出しています。







3. 正当な評価と「安心して失敗できる環境」づくり

生徒の成長を促すため、結果だけでなくプロセスをしっかり見つめた根拠のある具体的な評価を大切にしています。また、うまくいかなかった時こそ教員が寄り添い、「ともに」改善策を考えていきます。

・プロセスを認める丁寧な伴走

・「失敗と書いて成長と読む」 挑戦を讃える温かい声かけ

「失敗しても大丈夫」という安心感のもとで多くの経験を重ね、生徒たちの主体的な歩みを温かく支えてまいります。

4. 思いやりと寛容さを伴う主体性

自分勝手な行動は、本当の主体性とは言えません。他者への思いやりを持って行動すること、そして挑戦する友達を温かく応援し、互いを認め合う「寛容さ」をもつ集団づくりを目指しています。失敗する仲間がいたら「ともに」支え合い、認め合う心を育てます。

5. 学校全体の連携と、生徒への「価値」の還元

教職員全員が学年や担当の枠を超えて課題や取り組みを共有し、組織全体で生徒を支える指導体制を築いています。



- **学年を超えたチーム体制**
  全教職員が情報を共有し、一丸となって指導

- **実感を通した成長の支援**
  主体的行動による達成感や信頼関係の価値を実感

生徒たちが自ら一歩を踏み出し、その挑戦の中で得られる確かな手応えを胸に刻みながら、私たちも「ともに」歩み、日々の伴走を続けてまいります。

保護者や地域の皆様におかれましても、地域で生き生きと活動する生徒たちの姿を温かく見守り、励ましのお声をかけていただければ幸いです。これからも地域や家庭と「ともに」歩む学校づくりを進めてまいりますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

